

令和6年度
グローバル産地生産流通基盤強化緊急対策事業
(GFPコミュニティ構築支援加速化 委託事業 (GFP北海道)) 報告書

公表版

令和6年度グローバル産地生産流通基盤強化緊急対策
(GFPコミュニティ構築支援加速化対策委託事業 (GFP北海道))
受託事業者 株式会社北海道新聞社

業務内容…………… 2**業務内容（1）****地方自治体や商工会等の経済団体と連携した輸出促進の取り組み**…………… 3

GFP北海道輸出セミナー＆商談会

産地視察ツアーの開催…………… 3

セミナー開催告知…………… 4

セミナー参加事業者募集…………… 6

セミナー参加事業者申込フォーム…………… 7

【札幌会場】

GFP北海道 輸出セミナー＆商談会

札幌会場開催概要…………… 10

札幌会場開催の様相…………… 11

バイヤー向け産地視察ツアーの様相…………… 12

マスコミ報道・採録記事…………… 13

札幌会場アンケート結果…………… 14

札幌会場まとめ…………… 16

【旭川会場】

GFP北海道 輸出セミナー＆商談会

旭川会場開催概要…………… 18

旭川会場開催の様相…………… 19

バイヤー向け産地視察ツアーの様相…………… 20

マスコミ報道・採録記事…………… 21

旭川会場アンケート結果…………… 22

旭川会場まとめ…………… 24

【釧路会場】

GFP北海道 輸出セミナー＆商談会

釧路会場開催概要…………… 26

釧路会場開催の様相…………… 27

バイヤー向け産地視察ツアーの様相…………… 28

マスコミ報道・採録記事…………… 29

釧路会場アンケート結果…………… 30

釧路会場まとめ…………… 32

業務内容（2）**道産品ニーズ調査**…………… 33**【The 62nd OSEAL FORUM SAPPORO 開会式】**

開催概要…………… 35

開催の様相…………… 36

調査結果…………… 37

【道庁赤れんが庁舎】

開催概要…………… 40

調査の様相…………… 41

調査結果…………… 42

インタビュー結果…………… 47

調査のまとめ…………… 49

採録紙面…………… 50

業務内容（3）**伴走支援のための体制の構築・稼働**…………… 51

実施支援体制…………… 52

総括…………… 55

業務内容 1

地方自治体や商工会等の経済団体と連携した輸出促進の取り組み
【札幌・旭川・釧路会場共通事項】

GFP北海道輸出セミナー&商談会 産地視察ツアーの開催

道内3カ所（札幌市、旭川市、釧路市）において GFP 北海道輸出セミナー&商談会、産地視察ツアーを開催しました。各地域では事前に地方自治体や商工会議所等への事業者参集依頼を行いました。

札幌会場

2025/8/27 水

商談会品目

農林水産物・食品全般

旭川会場

2025/9/9 火

商談会品目

米・加工品
日本酒を中心とした
農林水産物・食品

釧路会場

2025/9/30 火

商談会品目

牛乳・乳製品
水産物を中心とした
農林水産物・食品

事業の柱として、独立行政法人日本貿易振興機構（以下、ジェトロ）のご協力をいただき、輸出の基礎知識から東南アジアの状況について解説をする輸出セミナーを開催しました。また、東南アジアおよび日本国内からバイヤーや国内商社の方々をお招きし、道産品の魅力を直接お伝えできる商談会を実施。さらには生産現場の環境を実際に見ていただく産地視察ツアーまでを一連の流れとして取り組みました。

各会場では30～40名程度の規模感とし、参加者の皆さまが輸出に関する基本的な事項を段階的に理解できるように配慮しました。また、商談会では通訳スタッフを配置し、言語の壁を感じることなく自然な交流ができる環境を整えるとともに、輸出経験のない事業者でも気軽に参加していただけるような雰囲気づくりを心がけ、輸出機運を高めるとともに道産品の海外展開促進に寄与することができました。

本イベントは、北海道の多様な農林水産物・食品と海外市場を結びつける上で極めて重要な機会となりました。セミナーを通じて、道内事業者の輸出に関する知識が深まり、商談会では多数の具体的な商談へ繋がる話が上がりました。産地視察ツアーでは、バイヤーが生産現場のこだわりや安全管理体制を直接確認することで、道産品への深い理解と信頼感を醸成することができました。参加事業者からは新たな販路開拓への期待、バイヤーからは具体的な購入検討や継続的な関係構築への意欲が示されるなど、継続的な輸出拡大に繋がるイベントとなりました。

セミナー開催告知

各地域の地方自治体や商工会議所等を中心にチラシを配布し、輸出セミナー＆商談会の周知を行いました。



GFP北海道 輸出セミナー＆商談会 産地視察ツアー

参加
無料

農林水産省北海道農政事務所では、農林水産物・食品の輸出拡大を目指した輸出セミナーおよび商談会を実施します。また、セミナー・商談会の翌日には商社・バイヤー向けの産地視察ツアーを行います。これから輸出に取り組む方も、販路拡大したい方にも、必見のイベントです。参加は無料。多くのご参加をお待ちしております。

SEMINAR セミナー

独立行政法人 日本貿易振興機構(ジェトロ)から講師を招き、日本における輸出概況やシンガポールをはじめとする東南アジアの食品事情、生活習慣等市場概要を中心にご説明します。



BUSINESS MEETING 商談会

シンガポール、マレーシア、タイのバイヤー、および国内商社との商談会を開催。これから輸出に取り組みたいと考えている方々、今後輸出先の拡大を検討している方々も、ぜひご参加ください。



産地視察ツアーは商談会に参加の事業者が決まり次第、ツアー内容を調整いたします。

札幌会場

2025/8/27(水)

セミナー 13:00~13:45
商談会 14:00~16:00(終了予定)

商談会品目 農林水産物・食品全般

開催場所 北海道新聞社1階 DO BOX EAST

札幌市中央区大通東4丁目1

募集人数 セミナー40名、商談会10社

締切 7月31日(木) 17:00

旭川会場

2025/9/9(火)

セミナー 13:00~13:45
商談会 14:00~16:00(終了予定)

商談会品目 米・米加工品・日本酒を中心とした農林水産物・食品

開催場所 旭川北洋ビル8階 小ホール

旭川市4条通9丁目

募集人数 セミナー30名、商談会8社

締切 8月7日(木) 17:00

釧路会場

2025/9/30(火)

セミナー 13:00~13:45
商談会 14:00~16:00(終了予定)

商談会品目 牛乳・乳製品・水産物を中心とした農林水産物・食品

開催場所 北海道新聞釧路支社5階 道新ホール

釧路市黒金町11丁目5-1

募集人数 セミナー30名、商談会8社

締切 8月28日(木) 17:00

お申し込みはこちら URL <https://survey.zohopublic.jp/zs/TuDTiL>

主催 農林水産省北海道農政事務所

運営事務局 北海道新聞社(お問い合わせ先:北海道新聞社営業局内 担当:赤坂・小谷)

※入力頂いた個人情報に関しては、本事業のみに使用いたします。

セミナー開催告知



GFP北海道 輸出セミナー&商談会 産地視察ツアー



SEMINAR & BUSINESS MEETING PROGRAM

セミナー・商談会プログラム

開場 12:30

セミナー 13:00～13:45 「東南アジア向け輸出に関する成功のポイント」
講師:独立行政法人 日本貿易振興機構(ジェトロ)

休憩 約15分

商談会 14:00～16:00 シンガポール、マレーシア、タイのバイヤー、および国内商社との商談会を
(終了予定) 開催します。(1バイヤーにつき20分～25分程度を予定)

産地視察ツアー

札幌会場 2025/8/28(木)

旭川会場 2025/9/10(水)

釧路会場 2025/10/1(水)

※産地視察ツアーは商談会に参加の事業者様が決まり次第、ツアー内容を調整いたします。

※商談会の翌日、バイヤーを対象とした産地視察ツアーを開催いたします。視察ツアーの受け入れが可能な方は、登録フォームにてお知らせください。



※記載内容は変更になる場合がございます。

お問い合わせ

主催 農林水産省北海道農政事務所
運営事務局 北海道新聞社(お問い合わせ先:北海道新聞社営業局内 担当:赤坂・小谷)
TEL:080-8621-1942 E-mail:gfp2025@hokkaido-np.co.jp
北海道農政事務所事業支援課 TEL:011-330-8810


GFP登録は
こちら

セミナー参加事業者募集

札幌会場・旭川会場・釧路会場

掲載エリア：北海道新聞全道版

掲載日：2025年7月24日、28日、30日、31日



GFP北海道 輸出セミナー&商談会 産地視察ツアー **参加無料**

農林水産省北海道農政事務所では、農林水産物・食品の輸出拡大を目指した輸出セミナーおよび商談会を実施します。また、セミナー・商談会の翌日には商社・バイヤー向けの産地視察ツアーを行います。これから輸出に取り組む方も、販路拡大したい方にも、必見のイベントです。参加は無料。多くのご参加をお待ちしております。

※産地視察ツアーは商談会に参加の事業者が決まり次第、ツアー内容を調整いたします。

お申し込みはこちら URL <https://survey.zohopublic.jp/zs/TuDtiL>

主催 農林水産省北海道農政事務所
運営事務局 北海道新聞社(お問い合わせ先:北海道新聞社営業局内 担当:赤坂・小谷)
E-mail gfp2025@hokkaido-np.co.jp ※入力頂いた個人情報に関しては、本事業のみに使用いたします。

札幌会場

2025/8/27(木) | セミナー 13:00-13:45
商談会 14:00-16:00(終了予定)

商談会品目: 農林水産物・食品全般

開催場所: 北海道新聞社1階 DO BOX EAST
札幌市中央区大通東4丁目1 | 7月31日(木)
募集人数: セミナー40名、商談会10社 | 17:00

旭川会場

2025/9/9(火) | セミナー 13:00-13:45
商談会 14:00-16:00(終了予定)

米・米加工品・日本酒を中心とした農林水産物・食品

開催場所: 旭川北洋ビル8階 小ホール
旭川市4条通9丁目 | 8月7日(木)
募集人数: セミナー30名、商談会8社 | 17:00

釧路会場

2025/9/30(火) | セミナー 13:00-13:45
商談会 14:00-16:00(終了予定)


牛乳・乳製品・水産物を中心とした農林水産物・食品

開催場所: 北海道新聞釧路支社5階 道新ホール
釧路市黒金町11丁目5-1 | 8月28日(木)
募集人数: セミナー30名、商談会8社 | 17:00

釧路会場【追加分】

掲載エリア：北海道新聞釧路版

掲載日：2025年9月5日、10日



GFP北海道 輸出セミナー&商談会 産地視察ツアー **参加無料**

農林水産省北海道農政事務所では、農林水産物・食品の輸出拡大を目指した輸出セミナーおよび商談会を実施します。また、セミナー・商談会の翌日には商社・バイヤー向けの産地視察ツアーを行います。これから輸出に取り組む方も、販路拡大したい方にも、必見のイベントです。参加は無料。多くのご参加をお待ちしております。

※産地視察ツアーは商談会に参加の事業者が決まり次第、ツアー内容を調整いたします。

お申し込みはこちら URL <https://survey.zohopublic.jp/zs/TuDtiL>

主催 農林水産省北海道農政事務所
運営事務局 北海道新聞社(お問い合わせ先:北海道新聞社営業局内 担当:赤坂・小谷)
E-mail gfp2025@hokkaido-np.co.jp ※入力頂いた個人情報に関しては、本事業のみに使用いたします。

釧路会場

2025/9/30(火)

セミナー 13:00-13:45
商談会 14:00-16:00(終了予定)

牛乳・乳製品・水産物を中心とした
農林水産物・食品

開催場所: 北海道新聞釧路支社5階 道新ホール
釧路市黒金町11丁目5-1

募集人数: セミナー30名、商談会8社

商談会に参加事業者様の募集は終了しました。
セミナーは引き続き募集中です。

セミナー参加事業者申込フォーム

札幌会場・旭川会場・釧路会場

GFP北海道セミナー&商談会 お申込フォーム

GFP北海道セミナー&商談会

第一部のセミナーでは、輸出に関する現在の概況、およびシンガポールをはじめとする東南アジアの食品事情や生活習慣など、市場概要を中心に説明いたします。
第二部では、シンガポールをはじめとする東南アジア各国、および輸出輸出会社（バイヤー）との商談会を開催します。これから輸出に取り組みたいと考えている方々、今後輸出先の拡大を検討している方々も、ぜひご参加ください。

主催：農林水産省北海道農政事務所
運営事務局：北海道新築社
【お問い合わせ先：北海道新築社営業案内 担当：赤坂・小坂】
営業011-826-8800（内線）
※入力済みの個人情報に関しては、本事業のみに使用いたします。

★札幌会場★
開催日時：8月27日（水）セミナー：13時～13時45分 商談会14時～16時（終了予定）
開催場所：北海道新築社1階 DO BOX EAST（札幌市中央区大通南4丁目）
参加人数：セミナー40名、商談会10社

★旭川会場★
開催日時：9月9日（水）セミナー：13時～13時45分 商談会14時～16時（終了予定）
開催場所：旭川北洋ビル4階 小ホール（旭川市4条通9丁目）
参加人数：セミナー30名、商談会8社

★釧路会場★
開催日時：9月30日（水）セミナー：13時～13時45分 商談会14時～16時（終了予定）
開催場所：北海道新築釧路支社5階 遊楽ホール（釧路市東金町11丁目5-1）
参加人数：セミナー30名、商談会8社

* 参加を希望する会場をお知らせください。 **※必須**

- 【開催終了】8月27日（水）札幌会場（商談会対象：農林水産物・食品全般）
 【開催終了】9月9日（水）旭川会場（商談会対象：米・食品加工品・日本酒を中心とした農林水産物・食品）
 9月30日（水）釧路会場（商談会対象：牛乳・乳製品・水産物を中心とした農林水産物・食品）

* 参加形態についてお知らせください。 **※必須**

- セミナーのみ
 セミナー・商談会の両方

* 参加者様の情報を教えてください。 **※必須**

企業・団体名をお知らせください。 **※必須**

担当者名をお知らせください。 **※必須**

担当者様の部署名・役職をお知らせください。

担当者様の電話番号をお知らせください。 **※必須**

担当者様のメールアドレスをお知らせください。 **※必須**

* 参加企業様の業種をお知らせください。 **※必須**

- 生産者
 食品加工会社
 流通業者
 商社
 公的機関
 その他（具体的に記入ください）

* 今まで輸出の経験はありますか？ **※必須**

- 輸出の経験があります
 輸出の経験はありません

輸出の経験が無い方にお尋ねします。今回、輸出を検討する理由がありましたらお知らせください。（自由記述、400文字以内） **※任意**

0 / 400

* 輸出経験有の方にお尋ねします。輸出先はどちらの国・地域でしたか？（複数回答可） **※必須**

- | | | |
|--|---------------------------------|--------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 中国 | <input type="checkbox"/> 韓国 | <input type="checkbox"/> 台湾 |
| <input type="checkbox"/> 香港 | <input type="checkbox"/> シンガポール | <input type="checkbox"/> マレーシア |
| <input type="checkbox"/> タイ | <input type="checkbox"/> ベトナム | <input type="checkbox"/> フィリピン |
| <input type="checkbox"/> インドネシア | <input type="checkbox"/> 中東 | <input type="checkbox"/> オセアニア |
| <input type="checkbox"/> ヨーロッパ | <input type="checkbox"/> 北米 | <input type="checkbox"/> 中南米 |
| <input type="checkbox"/> アフリカ | | |
| <input type="checkbox"/> その他（具体的に記入ください）
<input type="text"/> | | |

* その際の輸出方法はどのような形でしたか？ **※必須**

- 直接輸出
 間接輸出
 どちらも

セミナー参加事業者申込フォーム

札幌会場・旭川会場・釧路会場

* 輸出品目は何でしたか？（自由記述、400文字以内） ※必須

0 / 400

* 輸出していた時期はいつ頃ですか？（自由記述、400文字以内） ※必須

0 / 400

輸出をする上で課題がありましたら、お知らせください。（自由記述、400文字以内） ※任意

0 / 400

* 商談会に参加される方にお尋ねします。今回、輸出を希望する農林水産物・食品をお知らせください。（自由記述、400文字以内） ※必須

0 / 400

* 輸出を希望する商品の保存方法をお知らせください。（複数回答可） ※必須

- 常温
 冷蔵
 冷凍

* 輸出を希望する商品の賞味/消費期限をお知らせください。（自由記述、400文字以内） ※必須

0 / 400

* 商談会の翌日、バイヤーを対象とした産地視察ツアーを開催いたします。視察ツアーの受け入れは可能でしょうか？ ※必須

- 可能
 不可
 条件付きで可能

* このセミナー・商談会は何で知りましたか？ ※必須

- 行政機関からの紹介
 商工会議所等からの紹介
 GFPメルマガ
 運営事務局からの紹介
 その他（具体的に記述ください）

本ページでの入力以上となります。
その他、ご質問、お問い合わせがありましたらお知らせください。
gfp2025@hokaido-np.co.jp

送信

業務内容 1

地方自治体や商工会等の経済団体と連携した輸出促進の取り組み
【札幌会場】

札幌会場開催概要

名 称	GFP北海道 輸出セミナー＆商談会
開催日時	2025年8月27日（水） 13：00～16：00（開場12：30）
会 場	DO-BOX EAST（札幌市中央区大通東4丁目1番地 北海道新聞社1階）
開催内容	<p>【プログラム】</p> <p>①セミナー</p> <p>*ご挨拶：農林水産省北海道農政事務所 次長 原 孝文（はらたかふみ）氏</p> <p>*演題：「東南アジア向け輸出に関する成功のポイント」</p> <p>独立行政法人 日本貿易振興機構（ジェトロ）木戸潤一郎氏、岩井滯佳氏</p> <p>②商談会</p> <p>■バイヤー7社</p> <p>■参加事業社11社</p>
セミナー 定員	40名 ※各商談会は事前募集
参加 場 加 料	無料
主 催	農林水産省北海道農政事務所
運営事務局	北海道新聞社（営業局 担当 赤坂、小谷）

【会場案内図】



■交通アクセス

* 地下鉄東西線「バスセンター前」駅7番出口直結

札幌会場開催の様様



バイヤー向け産地視察ツアーの様様



マスコミ報道

■2025年8月29日 北海道新聞全道版



道農産品輸出拡大探る 札幌でセミナーと商談会

農林水産省は27日、北海道産の農水産物や加工食品などの輸出拡大に向けて「輸出セミナー&商談会」を札幌市内で開催した。生産者、食品加工メーカーなど道内の27社・団体が参加し、商社の担当者や海外のバイヤーに商品を売り込んだ。2022年に始まった輸出拡大に向けたプロジェクト「GFP北海道」の登録者を対象に、毎年行っている。2部構成で、第1部のセミナーでは、

「道産品のポテンシャルを生かして海外展開してもらえれば」と話した。同イベントは9月9日に旭川、同30日に釧路でも開く。(渡辺悠花)

シエトロ北海道の担当者が東南アジアを中心に輸出先となる国の市場について紹介した。第2部の商談会では、参加者のうち11社が、商品を紹介しながら海外展開について意見交換。28日には、商談会に参加した事業者の工場や畑を海外バイヤーらが視察するツアーも行われる。

農水省北海道農政事務所所原孝文次長(57)は、「道産品のポテンシャルを生かして海外展開してもらえれば」と話した。同イベントは9月9日に旭川、同30日に釧路でも開く。(渡辺悠花)

採録記事

■2025年9月29日 北海道新聞札幌本社版

札幌会場レポート



GFP北海道「輸出セミナー&商談会・産地視察ツアー」in札幌

農林水産省北海道農政事務所が主催するGFP北海道「輸出セミナー&商談会・産地視察ツアー」(事務局/北海道新聞社)が8月27日(水)、北海道新聞社1階DO BOX EASTで開催されました。札幌市および近郊から食品加工メーカーや生産者・団体など、多数の方々参加了。

道産品の輸出拡大を目指して

「GFP」(グローバル・ファーマーズ/フィッシャーマン/フォレストアース/フード・マニュファクチャーズ プロジェクト)は、農林水産省が推進する日本の農林水産物・食品の輸出プロジェクトです。

輸出を意欲的に取り組もうとする生産者・事業者等のサポートと連携を図るコミュニティサイトとして、2018(平成30)年に立ち上げられ、登録者を対象に専門家による輸出診断、事業者同士のマッチングやセミナー等の支援が行われています。「GFP北海道」は、北海道に密着した支援を行うため、全国初の地方版GFPとして、2022(令和4)年に発足し、今年で4年目となります。

本年度の事業として、海外市場への販路拡大を目指す道内企業に対して、最新の輸出支援策や海外状況を紹介し、実践的なヒントを届ける場を企画。札幌・旭川・釧路の3地区でセミナー&商談会を実施します。

セミナーに先立ち、主催者を代表して農林水産省北海道農政事務所所原孝文(はら・たかふみ)次長からあいさつがあり、「国内では人口減少がつづき市場は縮小傾向だが、海外市場は伸びている。北海道は国内最大の食料供給基地であり、道産食品の潜在能力は非常に高い。これらの輸出を一層強化して、地域全体の発展へとつなげていきたい」と開催の意義を語りました。



セミナーでは輸出に成功するポイントを解説

第1部となる輸出セミナーは「東南アジア向け輸出に関する成功のポイント」と題して、独立行政法人日本貿易振興機構(ジェトロ)北海道貿易情報センターの若井淳佳(わい・みお)さんが登壇。約50分、スライドを使って解説

しました。内容は「輸出とは」から始まり「輸出にはパートナーが必要であり、「よいパートナー」を見つけることが最も大切で、最も難しい」と指摘。今回のようなマッチング機会を積極的に利用してほしいと呼びかけていました。

セミナーの後半では、日本から各国への輸出額を示し、北米が21.8兆円と最大の相手国であるとしつつも、ASEAN(東南アジア諸国連合)が「世界の成長センター」として存在感を増している状況を明示。ASEANの中でもシンガポール・タイ・マレーシアの3国をピックアップし、それぞれ国ごとの、嗜好、食文化、商習慣や日本食の普及度合いについて解説しました。講演後、参加者から「失敗した事例やトラブルに困っておしえてほしい」との質問に、「代金の回収できなかったことや、通関のトラブルが多

い。なにより重要なのは信頼できる相手かどうか自分で判断すること」と答えていました。

前向きな商談を実施

第2部は隣の会場で商談会を実施しました。商談会では、シンガポール・マレーシア・タイなどに輸出を行う商社・バイヤーが参加。社25分ほどの時間で、参加各社からのプレゼンテーションや、商品説明、実際のサンプル商品の試食などが行われました。具体的な商談に進んだところもあり、爽やかな商談会となりました。

産地視察ではバイヤーが熱心に現場を見る

翌日の産地視察ツアーでは、前日の商談会に出席したバイヤーが参加し、札幌市や近郊

の3ヶ所を訪問。農産物・食品の生産・製造工程や製品の品質などを確認していました。

札幌市手稲区の「さっぽろワイン」では製造工程を見学し、道内の気候が生み出す繊細な味わいについて説明を受けました。続く、新篠津村の「大塚ファーム」では、有機栽培の採れたミニトマトを試食し、バイヤーからも「甘くておいしい」といった声が聞かれました。最後に訪問した千歳市の「ペイクド・アルル」では、衛生管理が徹底されたスイーツ工場を見て回りました。



参加バイヤー

KCセントラル(株) DAISHO(THAILAND) CO., LTD.
SARUWAKI FOODS PTE.LTD. (自営農業者)
おんじん(株) CORAD(株)

企画制作/北海道新聞社営業局

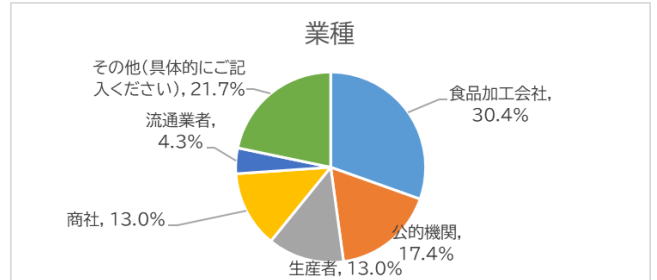
広告

札幌会場アンケート結果

▷セミナー参加数30名 回答数：23

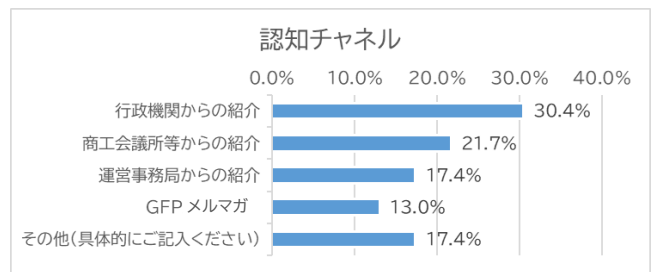
■業種を教えてください ※必須

業種	回答率	回答数
食品加工会社	30.4%	7
公的機関	17.4%	4
生産者	13.0%	3
商社	13.0%	3
流通業者	4.3%	1
その他	21.7%	5



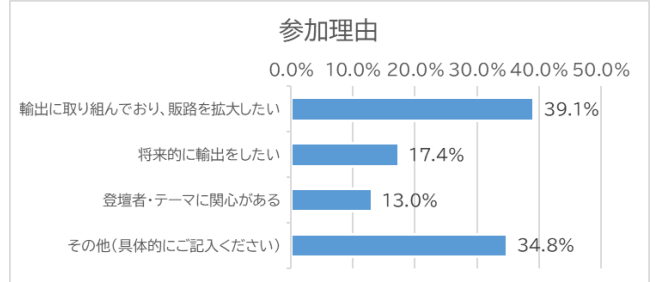
■本セミナーをお知りになったきっかけを教えてください ※必須

	回答率	回答数
行政機関からの紹介	30.4%	7
商工会議所等からの紹介	21.7%	5
運営事務局からの紹介	17.4%	4
GFPメルマガ	13.0%	3
その他	17.4%	4



■本セミナーに参加された理由を教えてください ※必須

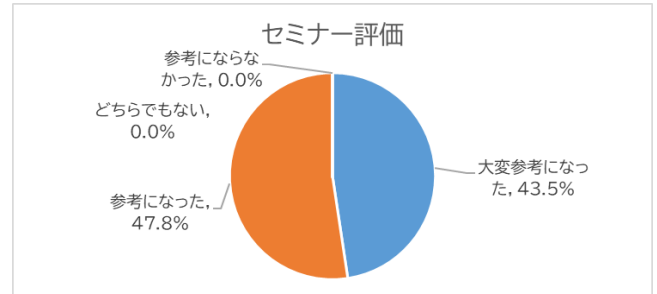
参加理由	回答率	回答数
輸出に取り組んでおり、販路を拡大したい	39.1%	9
将来的に輸出をしたい	17.4%	4
登壇者・テーマに関心がある	13.0%	3
その他	34.8%	8



札幌会場アンケート結果

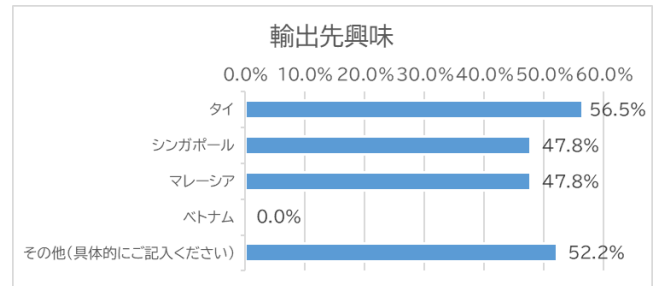
■本セミナーにおける評価をご回答ください ※必須

セミナー評価	回答率	回答数
大変参考になった	43.5%	10
参考になった	47.8%	11
参考にならなかった	0.0%	0
どちらでもない	0.0%	0



■セミナーに参加した上で、どの市場への輸出に興味を持ちましたか ※必須

市場興味	回答率	回答数
タイ	56.5%	13
シンガポール	47.8%	11
マレーシア	47.8%	11
ベトナム	0.0%	0
その他	52.2%	12



■本セミナーのご感想等ありましたらご自由にご記入ください ※任意

- <自由記述>
- ・現在のマーケットが知ることができ大変参考になった。
 - ・次のターゲット国として、EUが気になった。
 - ・自社の想いに共感してくれるパートナー選びが大切という点にとっても共感した。

■札幌会場 まとめ

札幌市および近郊から多数の食品加工メーカーや生産者、団体等が参加し、海外市場への販路拡大を目指す道内企業に対して、最新の輸出支援策や実践的なヒントを提供する貴重な機会となりました。札幌圏が有する食の潜在能力を最大限に活かし、地域全体の発展へとつなげることが本事業の重要な目的です。

第1部では、ジェトロの岩井滯佳氏が登壇し、「東南アジア向け輸出に関する成功のポイント」と題して講演しました。岩井氏は、輸出成功の鍵は「良いパートナーを見つけること」にあると強調し、ASEANを「世界の成長センター」と捉え、シンガポール、マレーシア、タイをはじめとした各国の嗜好や食文化、商習慣への深い理解が不可欠であることを解説しました。参加者から失敗事例に関する質問が寄せられると、岩井氏は代金回収や通関トラブルが多い現状を挙げ、「信頼できる相手かどうかを自ら判断することが最も重要」と述べ、札幌圏の企業が海外展開を進めるうえでの具体的な注意点を伝えました。

第2部の商談会には、シンガポール、マレーシア、タイなどへの輸出を手がけるバイヤー等が参加しました。札幌市および近郊の食品加工メーカーや生産者は、自社商品のプレゼンテーションやサンプル試食を提供し、具体的な商談へと進展する場面も見られました。都市圏である札幌の利点を活かし、多くの企業が海外バイヤーと直接対話し、輸出の拡大に向けて、参加事業者の製品の魅力を伝える機会を提供しました。

翌日の産地視察ツアーでは、商談会に参加したバイヤーたちが札幌市およびその近郊の3カ所を訪問しました。まず札幌市の「株式会社さっぽろワイン」では、寒冷な気候が育む繊細な味わいのワイン製造工程を見学し、都市圏で高品質なワインが生産されている札幌ならではの魅力を伝えました。次に新篠津村の「有限会社大塚ファーム」では、肥沃な大地で有機栽培された採れたてのミニトマトを試食し、バイヤーからは「甘くて美味しい」と高い評価を得ました。最後に千歳市の「株式会社アルル・ファクトリー」では、徹底した衛生管理のもと、北海道産原料にこだわったスイーツを製造する工場を視察しました。新千歳空港に近く物流の利便性も高い千歳市は、加工食品の輸出拠点として大きな可能性を秘めており、今後の輸出の拡大が期待されます。

この一連の取組を通じて、札幌圏の企業は輸出戦略の具体化と海外バイヤーとのネットワーク構築を進め、道産品のさらなる輸出拡大に向けた確かな手応えを感じることができる、効果の高いイベントとなりました。

業務内容 1

地方自治体や商工会等の経済団体と連携した輸出促進の取り組み
【旭川会場】

旭川会場開催概要

名 称	GFP北海道 輸出セミナー＆商談会
開 催 日 時	2025年9月9日（火） 13：00～16：00（開場12：30）
会 場	旭川北洋ビル8階 小ホール（旭川市4条通9丁目）
開 催 内 容	<p>【プログラム】</p> <p>①セミナー</p> <p>* ご挨拶：北海道農政事務所 生産経営産業部事業支援課長 浅浦 真二（あさうら しんじ）氏</p> <p>* 演題：「東南アジア向け輸出に関する成功のポイント」 独立行政法人 日本貿易振興機構（ジェトロ）木戸潤一郎氏、岩井滯佳氏</p> <p>②商談会</p> <p>■バイヤー5社</p> <p>■参加事業社9社</p>
セ ミ ナ ー 員	30名 ※各商談会は事前募集
参 入 場 加 料	無料
主 催	農林水産省北海道農政事務所
運 営 事 務 局	北海道新聞社（営業局 担当 赤坂、小谷）

【会場案内図】



■ 交通アクセス

* JR旭川駅 徒歩10分

旭川会場開催の様様



バイヤー向け産地視察ツアーの様相



マスコミ報道

2025年9月10日 北海道新聞旭川版

地元産品 輸出拡大へPR

道農政事務所 国内外商社招き商談会

北海道農政事務所は9日、旭川市内で食品関連業者と国内外の商社を招いた商談会を開き、旭川市や美瑛町などの11社が商品の魅力を国内外5社のバイヤーにPRした。商談会は、農産加工品の輸出拡大を目指して同事務所が道内各地で開いている。今回は食品製造を手がけている会社の担当者らが、広大な牧場で育てた牛の乳製品や、地元酒米や大雪山系の地下水で仕込んだ日本酒などのこだわりを説明した。



国内外のバイヤーに自社商品の魅力を伝えた商談会

バイヤー側は一部の国では加工肉の輸入規制があることや、輸送時の品質低下の可能性について質問していた。シンガポールの商社から参加したアン・アンドリュースさんは「現地で日本食は非常に人気。魅力的な商品をたくさん知れた」と手応えを話し、日本ハム北海道ファクトリー旭川工場の伊藤裕介工場長は「輸出に力を入れており、商談会での情報を役立てたい」とした。

(山中悠介)

採録記事

2025年10月16日 北海道新聞旭川版

広告

旭川会場レポート



GFP北海道「輸出セミナー&商談会・産地視察ツアー」 in旭川

農林水産省北海道農政事務所が主催するGFP北海道「輸出セミナー&商談会・産地視察ツアー」(事務局/北海道新聞社)が9月9日(火)、旭川北洋ビル8階の小ホールで開催されました。旭川市および近郊から食品加工メーカーや生産者・団体など、多数の方々に参加しました。

道産品の輸出拡大を目指して

「GFP」(Global Farmers / Fishermen / Foresters / Food Manufacturers Project)は、農林水産省が推進する日本の農林水産物・食品の輸出プロジェクトです。

輸出を意欲的に取り組もうとする生産者・事業者などのサポートと連携を図るコミュニティサイトとして、2018(平成30)年に立ち上げられ、登録者を対象に専門家による輸出診断、事業者同士のマッチングやセミナーなどの支援が行われています。「GFP北海道」は、北海道に密着した支援を行うため、全国初の地方版GFPとして、2022(令和4)年に発足し、今年で4年目となります。

本年度の事業として、海外市場への販路拡大を目指す道内企業に対し、最新の輸出支援策や海外状況を紹介し、実践的なヒントを届ける場を企画。札幌・旭川・釧路の3地区でセミナー&商談会を実施しています。

セミナーに先立ち、主催者を代表して農林水産

産省北海道農政事務所の淺浦真二課長からあいさつがあり、「人口減少や少子高齢化により国内市場の縮小が見込まれる中、拡大を続ける海外市場をターゲットとし、輸出の促進により、「海外から稼ぐ力」を強化していくことが必要となっている。北海道は国内最大の食料供給基地であり、そのポテンシャルをさらに発揮していくことが期待されている。関係者が一体となって取組を促進し、地域全体の発展へとつなげていきたい」と開催の意義を語りました。

セミナーでは輸出に成功するポイントを解説

第1部となる輸出セミナーは「東南アジア向け輸出に関する成功のポイント」と題して、独立行政法人日本貿易振興機構(ジェトロ)の木戸真一郎さんが登壇。約40分、スライドを使って解説しました。内容は「輸出とは」から始まり

「輸出にはパートナーが必要であり、『よいパートナー』を見つけることが最も大切で、最も難しい」と指摘。今回のようなマッチング機会を積極的に利用してほしいと呼びかけていました。

セミナーの後半では、日本から各国への輸出額を示し、北米が21.8兆円と最大の相手国であるとしつつも、ASEAN(東南アジア諸国連合)が「世界の成長センター」として存在感を増している状況を明示。ASEANの中でもシンガポール・タイ・マレーシア・ベトナムの4か国をピックアップし、それぞれ国ごとの、嗜好、食文化、商習慣や日本食の普及度合いについて解説しました。講演後、参加者から「パートナーを選ぶ時の具体的な見極め方は?」との質問に、「御社の商品が売れているのか、否か、といったことに対して、的確な情報やこちら側が欲しい

情報をスピーディに提供してくれるかどうかといった点が重要だ」と答えていました。

前向きで実りある商談会

第2部は隣の会場で商談会を実施しました。商談会では、シンガポール・マレーシア・タイなどに輸出を行うバイヤーが参加。1社25分ほどの時間で、参加各社からのプレゼンテーションや、商品説明、実際のサンプル商品の試食などが行われました。具体的な商談が進んだところもあり、実りある商談会となりました。

バイヤーが熱心に産地を視察

翌日の産地視察ツアーでは、前日の商談会に出席したバイヤーが参加し、旭川市や近郊の3ヶ所を訪問。上富良野町の「TF食品」では、ジェラート工房を訪ね製法工程を見学。参加者

は複数のフレーバーを試食し、味の違いを確認していました。美瑛町の「ファームズ千代田」では、肉牛と乳牛の飼育現場を視察。飼育環境や衛生管理、飼料の工夫について説明を受けました。旭川市の「高砂酒造」では、明治時代から続く伝統的な酒造りの工程を見学し、試飲が行われました。

視察を通じて参加バイヤーからは「実際に産地を視察したことで、商品への理解が一層深まった」「今後の取引に向けた具体的な検討が可能になった」との声が聞かれました。

参加バイヤー

- 住友商事北海道株式会社 株式会社S1HLD
株式会社ディー・エム・エス株式会社 K&F Japanese Food Supply Pte. Ltd.
関分北産農産株式会社

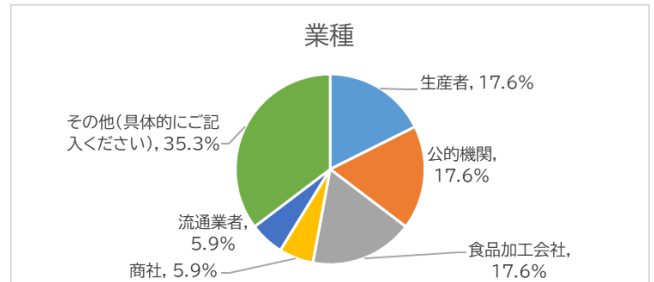
企画制作/北海道新聞社営業局

旭川会場アンケート結果

▷セミナー参加数：17名 回答数：17

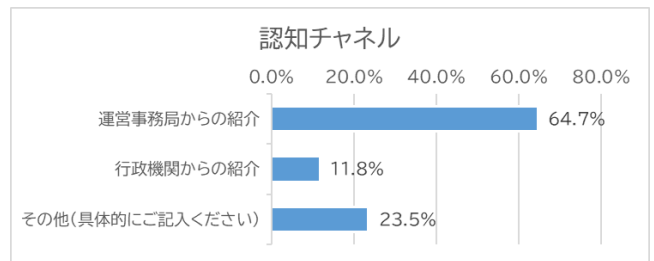
■業種を教えてください ※必須

業種	回答率	回答数
生産者	17.6%	3
公的機関	17.6%	3
食品加工会社	17.6%	3
商社	5.9%	1
流通業者	5.9%	1
その他	35.3%	6



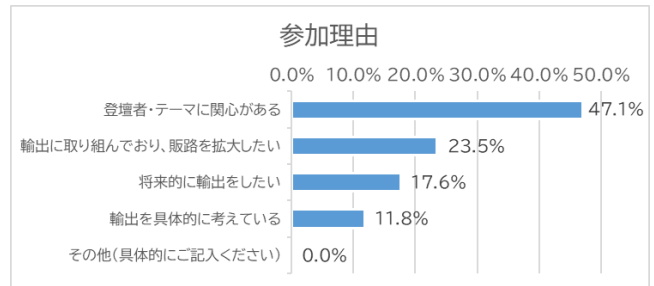
■本セミナーをお知りになったきっかけを教えてください ※必須

	回答率	回答数
運営事務局からの紹介	64.7%	11
行政機関からの紹介	11.8%	2
その他	23.5%	4



■本セミナーに参加された理由を教えてください ※必須

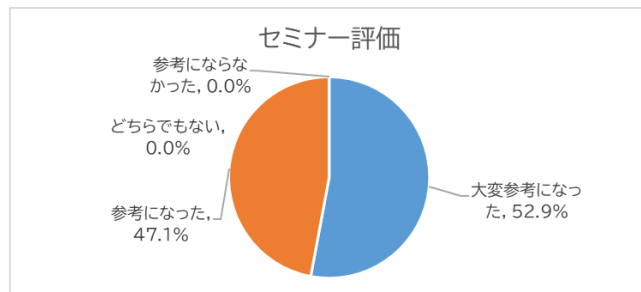
参加理由	回答率	回答数
登壇者・テーマに関心がある	47.1%	8
輸出に取り組んでおり、販路を拡大したい	23.5%	4
将来的に輸出をしたい	17.6%	3
輸出を具体的に考えている	11.8%	2
その他	0.0%	0



旭川会場アンケート結果

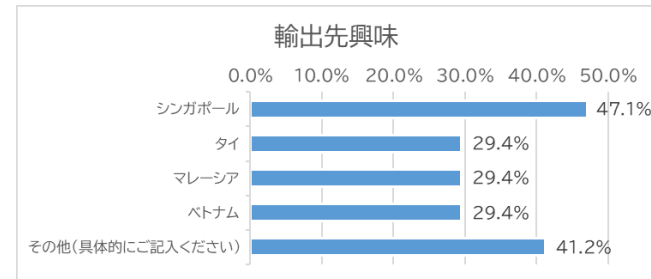
■本セミナーにおける評価をご回答ください ※必須

セミナー評価	回答率	回答数
大変参考になった	52.9%	9
参考になった	47.1%	8
参考にならなかった	0.0%	0
どちらでもない	0.0%	0



■セミナーに参加した上で、どの市場への輸出に興味を持ちましたか ※必須

市場興味	回答率	回答数
シンガポール	47.1%	8
タイ	29.4%	5
マレーシア	29.4%	5
ベトナム	29.4%	5
その他	41.2%	7



■本セミナーのご感想等ありましたらご自由にご記入ください ※任意

- <自由記述>
- ・ジェトロの支援策を活用したいと思った。
 - ・信頼のおけるパートナー探しが本当に重要で、しかも難しいと感じた。
 - ・出席者同士の情報交換の場があれば良いと思った。

■旭川会場 まとめ

旭川市およびその近郊から多数の食品加工メーカーや生産者、団体等が参加し、道産食品の輸出促進と地域経済の活性化への貢献を目指しました。

第1部の輸出セミナーでは、ジェトロの木戸潤一郎氏が「東南アジア向け輸出に関する成功のポイント」を解説しました。木戸氏は、輸出成功の鍵は「良いパートナーを見つけること」にあると強調し、ASEANを「世界の成長センター」と位置づけたうえで、シンガポール、マレーシア、タイをはじめ各国の嗜好や商習慣に合わせた戦略の重要性を指摘しました。

第2部の商談会では、シンガポール、マレーシア、タイなどへの輸出を手がけるバイヤー等が参加し、各企業は自社商品のプレゼンテーションやサンプル試食を実施しました。具体的な商談に進展するケースも見られ、参加事業者の海外販路開拓に向けた実りある機会を提供しました。

翌日の産地視察ツアーでは、バイヤーが旭川市およびその近郊を訪問しました。上富良野町の「TF食品株式会社」ではジェラート工房を、美瑛町の「株式会社ファームズ千代田」では肉牛・乳牛の飼育現場を視察。旭川市の「高砂酒造株式会社」では伝統的な酒造りの工程を見学・試飲しました。バイヤーからは「現地視察で商品理解が深まり、具体的な取引検討が可能になった」との声が聞かれました。旭川市を中心とする道北・道央地域は、新鮮な農畜産物や高品質な加工食品、そして日本酒など、多岐にわたる「食」の豊かなポテンシャルを秘めています。今回の視察により、地域独自の食文化と生産者の想いを海外バイヤーに直接伝え、道産品のさらなる輸出拡大へとつながる関係を構築することができました。

業務内容 1

地方自治体や商工会等の経済団体と連携した輸出促進の取り組み
【釧路会場】

釧路会場開催概要

名 称	GFP北海道 輸出セミナー＆商談会
開 催 日 時	2025年9月30日（火） 13：00～16：00（開場12：30）
会 場	道新ホール（釧路市黒金町11丁目5-1）
開 催 内 容	<p>【プログラム】</p> <p>①セミナー</p> <p>* ご挨拶：農林水産省北海道農政事務所 輸出対策推進官 東川博夫（ひがしかわ ひろお）氏</p> <p>* 演題：「東南アジア向け輸出に関する成功のポイント」 独立行政法人 日本貿易振興機構（ジェトロ）木戸潤一郎氏</p> <p>②商談会</p> <p>■バイヤー4社</p> <p>■参加事業社9社</p>
セ ミ ナ 一 員 定	30名 ※各商談会は事前募集
参 入 場 加 料	無料
主 催	農林水産省北海道農政事務所
運 営 事 務 局	北海道新聞社（営業局 担当 赤坂、小谷）

【会場案内図】



■交通アクセス

* JR釧路駅 徒歩5分

釧路会場開催の様様



バイヤー向け産地視察ツアーの様様



マスコミ報道

2025年10月1日 北海道新聞釧根版

釧根の農水産物 輸出拡大策探る 釧路でセミナー

北海道農政事務所は30日、釧路 根室管内の農水産物や加工食品の輸出拡大を目的とする「輸出セミナー&商談会」を北海道新聞釧路支社内で開いた。水産加工業をはじめ、東南アジアに輸出を行う国内商社・バイヤーらに商品を売り込んだ。セミナーと商談会は2022年に始まった輸出拡大のプロジェクト「G

FP北海道」の登録者を対象に毎年開いている。商談会は白糠町の東和食品や釧路市のおが和、根室市の藤井水産などが参加。各社の担当者が地元産原料を使う自社製品の特長を説明した。



地場産品の海外展開について話し合う商社の担当者やバイヤーら

釧路市の食品加工業「郊楽苑ホールディングス」は道東産生乳を使うプロセスチーズを使うPR。営業部次長の片野健一さん(62)は「既に輸出しているがさらに拡大したい」と話した。商談会に先立つセミナーでは、日本貿易振興機構(ジェトロ)北海道貿易情報センターの木戸潤一郎さん(67)が講演。シンガポールやタイなど東南アジア各国で日本食が普及している状況を紹介し「長期的な取引につなげるのが課題で北海道ブランドは大きな強みになる」と述べた。

1日は商社の担当者らが、商談会に参加した釧路市内の企業などを視察する。(木村直人)

採録記事

2025年10月31日 北海道新聞釧根版

釧路会場レポート

GFP 農林水産物・食品輸出プロジェクト

道産品の輸出拡大を目指して

「GFP」(Global Farmers / Fishermen / Foresters / Food Manufacturers Project)は、農林水産省が推進する日本の農林水産物・食品の輸出プロジェクトです。

輸出を意欲的に取り組もうとする生産者・事業者などのサポートと連携を図るコミュニティサイトとして、2018(平成30)年に立ち上げられ、登録者を対象に専門家による輸出診断、事業者同士のマッチングやセミナーなどの支援が行われています。「GFP北海道」は、北海道に密着した支援を行うため、全国初の地方版GFPとして、2022(令和4)年に発足し、今年で4年目となります。

本年度の事業として、海外市場への販路拡大を目指す道内企業に対して、最新の輸出支援策や海外状況を紹介し、実践的なヒントを届ける場を企画。札幌・旭川・釧路の3地区でセミナー&商談会を実施しています。

セミナーに先立ち、主催者を代表して農林水産省北海道農政事務所が主催するGFP北海道「輸出セミナー&商談会・産地視察ツアー」(事務局/北海道新聞社)が9月30日(火)、北海道新聞釧路支社5階の道新ホールで開催されました。釧路市および近郊から食品加工メーカーや生産者・団体など、多数の方々が参加しました。

GFP北海道「輸出セミナー&商談会・産地視察ツアー」 in 釧路

第1部となる輸出セミナーは「東南アジア向け輸出に関する成功のポイント」と題して、独立行政法人日本貿易振興機構(ジェトロ)の木戸潤一郎氏が登壇。約30分、スライドを使って解説しました。内容は「輸出とは」から始まり「輸出にはパートナーが必要であり、「よいパートナー」を見つけることが最も大切で、最も難しい」と指摘。今回のようなマッチング機会を積極的に利用してほしいと呼びかけていました。

セミナーの後半では、日本から各国への輸出額を示し、米が218兆円と最大の相手国であるとしつつも、ASEAN(東南アジア諸国連合)が「世界の成長センター」として存在感を増している状況を明示。ASEANの中でもシンガポール・タイ・マレーシア・ベトナムの4か国をピックアップし、それぞれ国ごとの、嗜好、食文化、商習慣や日本食の普及度合いについて解説しました。

前向きで実りある商談会

第2部は隣の会場で商談会を実施しました。商談会では、シンガポール・マレーシア・タイなどに輸出を行うバイヤーが参加。1社25分ほどの時間で、参加各社からのプレゼンテーションや、商品説明、実際のサンプル商品の試食などが行われました。具体的な商談が進んだこともあり、実りある商談会となりました。

バイヤーが熱心に産地を視察

翌日の産地視察ツアーでは、前日の商談会に出産したバイヤーが参加し、釧路の水産加工会社「釧路おが和」と「北海食品」を訪問しました。ツアーでは、両社の工場見学をはじめ、試食などが行われました。視察を通じて、参加バ

広告

「今後は「釧路の水産業の魅力とこだわりの製品づくりに触れる貴重な機会となった」 「今後の取引に向けた具体的な検討が可能になった」といった声が聞かれました。

参加バイヤー

KCセントラル興業株式会社 株式会社ディー・エム・エル
住友商事北海道株式会社 国分北海道株式会社

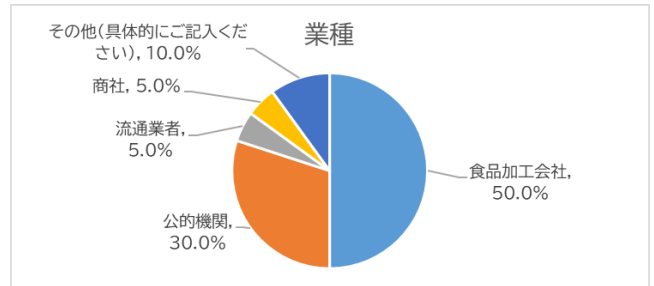
企画制作 / 北海道新聞社営業局

釧路会場アンケート内容

▷セミナー参加数：22名 回答数：20

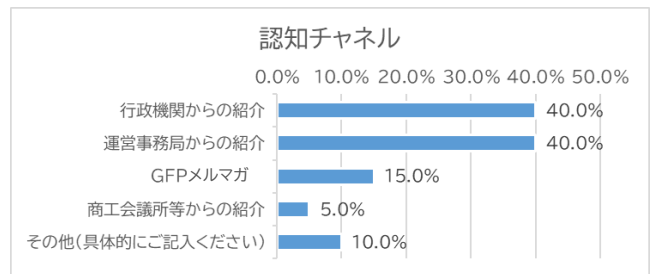
■業種を教えてください ※必須

業種	回答率	回答数
食品加工会社	50.0%	10
公的機関	30.0%	6
流通業者	5.0%	1
商社	5.0%	1
その他	10.0%	2



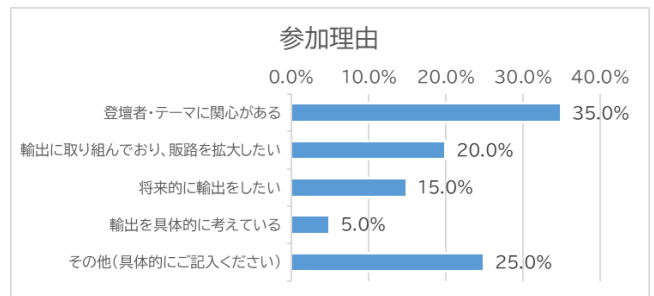
■本セミナーをお知りになったきっかけを教えてください ※必須

	回答率	回答数
行政機関からの紹介	40.0%	8
運営事務局からの紹介	40.0%	8
GFPメルマガ	15.0%	3
商工会議所等からの紹介	5.0%	1
その他	10.0%	2



■本セミナーに参加された理由を教えてください ※必須

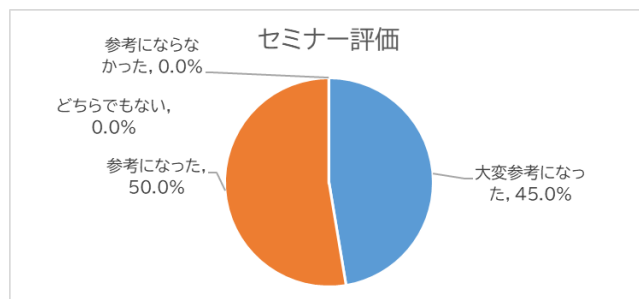
参加理由	回答率	回答数
登壇者・テーマに関心がある	35.0%	7
輸出に取り組んでおり、販路を拡大したい	20.0%	4
将来的に輸出をしたい	15.0%	3
輸出を具体的に考えている	5.0%	1
その他	25.0%	5



釧路会場アンケート内容

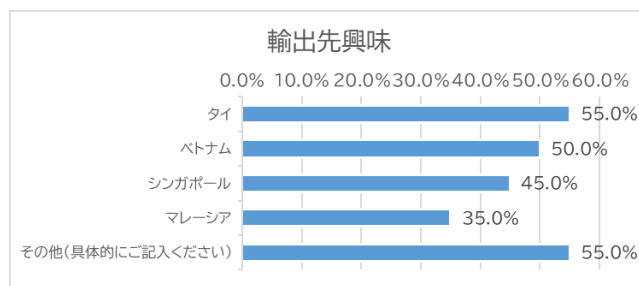
■本セミナーにおける評価をご回答ください ※必須

セミナー評価	回答率	回答数
大変参考になった	45.0%	9
参考になった	50.0%	10
参考にならなかった	0.0%	0
どちらでもない	0.0%	0



■セミナーに参加した上で、どの市場への輸出に興味を持ちましたか ※必須

市場興味	回答率	回答数
タイ	55.0%	11
ベトナム	50.0%	10
シンガポール	45.0%	9
マレーシア	35.0%	7
その他	55.0%	11



■本セミナーのご感想等ありましたらご自由にご記入ください ※任意

- <自由記述>
- ・東南アジア各国に異なる特徴があり、それらに応じた輸出体制が大切であることがよくわかった。
 - ・食品分類別の注目市場など今後知ることができると良い。
 - ・現地パートナーとのマッチングの充実など、これからも支援をお願いしたい。
 - ・輸出した後どのように売られているかを気にすることはあまり無かったので、今後意識する必要性に気づかせてもらった。

■ 釧路会場 まとめ

釧路市およびその近郊から多数の食品加工メーカーや生産者、団体等が参加し、海外市場への販路拡大を目指す道内企業に対して、実践的なヒントと具体的な商談機会を提供しました。また、豊富な水産資源を有する釧路地域の食品輸出を一層強化し、地域全体の発展へとつなげるという強い意義が示されました。

第1部の輸出セミナーでは、ジェトロの木戸潤一郎氏が「東南アジア向け輸出に関する成功のポイント」を解説しました。木戸氏は、輸出成功には「良いパートナーを見つけること」が最も重要であり、簡単ではないと指摘しました。また、世界の成長センターとして存在感を増すASEAN市場に焦点を当て、シンガポール、マレーシア、タイをはじめ、各国の嗜好や食文化、商習慣、日本食の普及度合いについて詳細に説明し、参加者に市場理解を促しました。

第2部の商談会では、シンガポールやマレーシア、タイなどへの輸出を手がけるバイヤー等が参加しました。各社は試食を通して自社商品のプレゼンテーションを行い、意見交換が交わされました。具体的な商談に進展するケースも見られるなど、参加事業者の海外販路開拓に向けた実りある機会を提供しました。

翌日の産地視察ツアーでは、前日の商談会に出席したバイヤーが「海のまち釧路」ならではの魅力をより深く探る機会となりました。日本有数の漁業基地である釧路の水産加工会社「株式会社おが和」と「北海食品株式会社」を訪問し、両社の工場見学を通じて、製品が生まれる現場の衛生管理体制や加工技術、さらに高品質な水産物を厳選し、丁寧に製品へと仕上げるこだわりを感じることができました。試食を交えながら、釧路の水産業が長年培ってきた品質へのこだわりを聞いたバイヤーからは、「釧路の水産業の魅力とこだわりの製品づくりに触れる貴重な機会となった」「今後の取引に向けた具体的な検討が可能になった」といった声があがり、今後の釧路地域の農林水産物・食品の輸出拡大につながる関係性を構築することができました。

業務内容 2

道産品ニーズ調査

道産品ニーズ調査

セミナーおよび商談会に参加した事業者へ調査参加を呼びかけ、道産品のニーズ調査を実施しました。調査は時期と会場の異なる2カ所で行い、多様な来場者から意見を収集することで、味やパッケージデザイン、価格帯、購買意識などに関する幅広い傾向を把握しました。これにより、今後の海外展開や商品改良に向けた基礎的データを得る有意義な取り組みとなりました。

The 62nd OSEAL FORUM SAPPORO 開会式

2025/10/24 金 大和ハウスプレミストドーム（札幌ドーム）

国際会議「第62回OSEALフォーラム札幌」では、東南アジアを中心とする海外参加者を対象に、GFP北海道ブースで道産品の試食・試飲を行い、味覚や嗜好、購買意欲などを調査しました。幅広い国・地域からの来場者の反応を通して、食品の風味やパッケージへの評価を確認し、今後の輸出促進や商品開発の方向性を検討するうえで貴重な成果を得ました。

道庁赤れんが庁舎（赤れんがホールA）

2026/2/7 土 北海道庁赤れんが庁舎（赤れんがホールA）

北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）での調査では、訪日観光客を中心とした幅広い国・地域の来場者からアンケートを回収し、商品の魅力や価格イメージに関する評価を分析しました。観光名所で実施することにより、訪日観光客視点の購買ニーズを把握するとともに、道産品ブランドの発信力強化や販路拡大に役立つ情報を得ることができました。

The 62nd OSEAL FORUM SAPPORO 開会式 農林水産省 北海道農政事務所 G F P 北海道ブース出展 開催概要

タイトル : The 62nd OSEAL FORUM SAPPORO 開会式
農林水産省 北海道農政事務所 G F P 北海道ブース出展

実施時間 : 2025年10月24日 (金) 11:00~17:00

実施場所 : 大和ハウスプレミストドーム (札幌ドーム)

来場者数 : 10,000人 (うち海外からの参加者: 3,000人)



アクセス

〒062-0045 札幌市豊平区羊ヶ丘1番地



The 62nd OSEAL FORUM SAPPORO 開会式
農林水産省 北海道農政事務所GFP北海道ブース出展 開催の様様

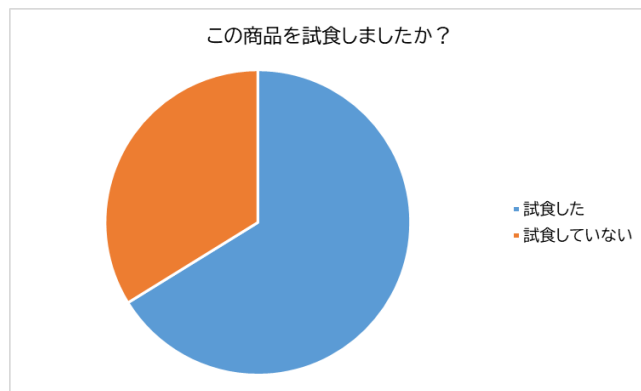


調査結果 (アンケートの一部抜粋)

【食品会社】加工食品

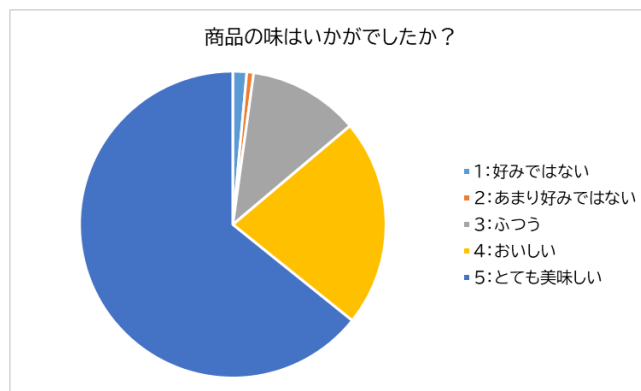
■この商品を試食しましたか？

試食した	137	66%
試食していない	70	34%



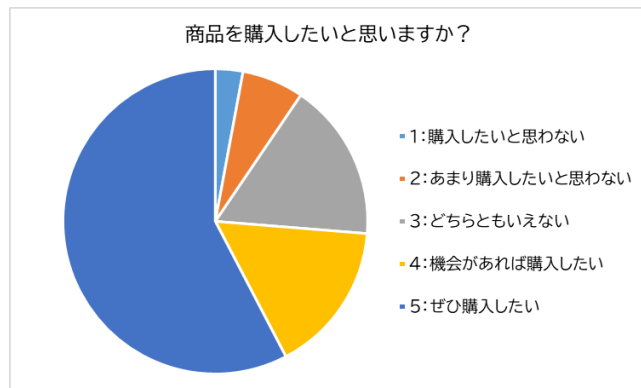
■商品の味はいかがでしたか？

1:好みではない	2	1%
2:あまり好みではない	1	1%
3:ふつう	16	12%
4:おいしい	30	22%
5:とても美味しい	88	64%



■商品を購入したいと思いますか？

1:購入したいと思わない	4	3%
2:あまり購入したいと思わない	9	7%
3:どちらともいえない	23	17%
4:機会があれば購入したい	22	16%
5:ぜひ購入したい	79	58%

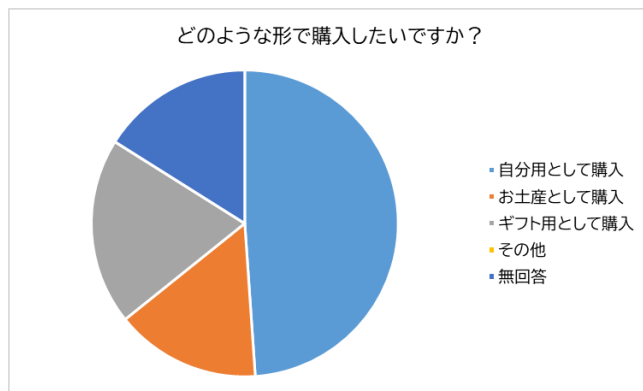


調査結果（アンケートの一部抜粋）

【食品会社】加工食品

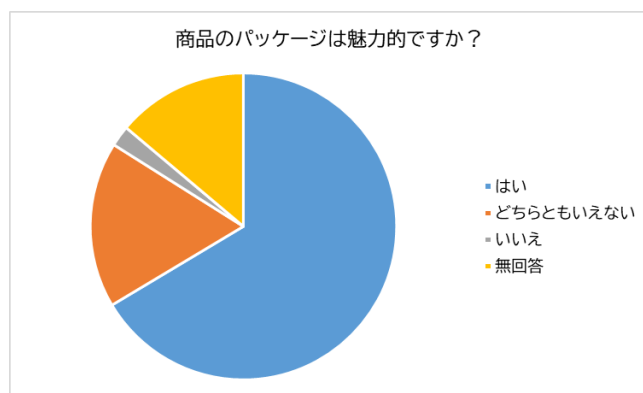
■どのような形で購入したいですか？

自分用として購入	67	49%
お土産として購入	21	15%
ギフト用として購入	27	20%
その他	0	0%
無回答	22	16%



■商品のパッケージは魅力的ですか？

はい	91	66%
どちらともいえない	24	18%
いいえ	3	2%
無回答	19	14%

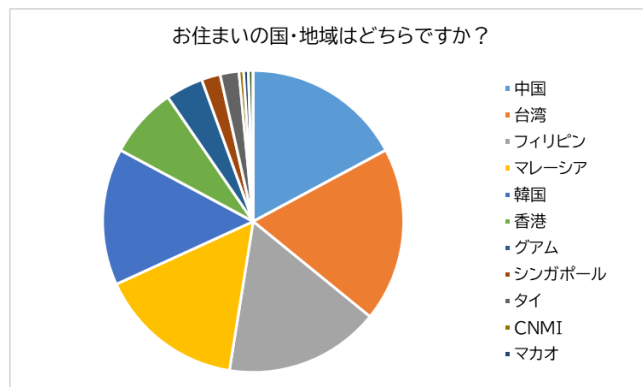


調査結果

▷回答数：198

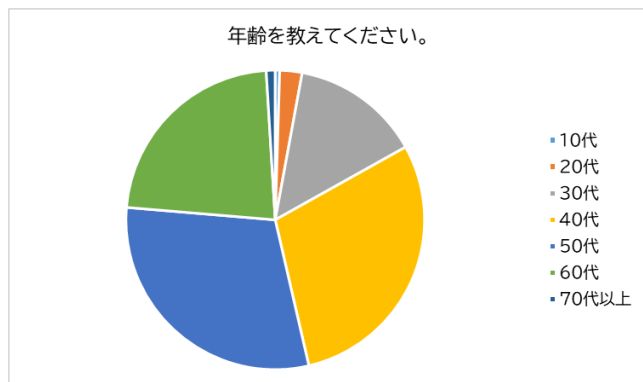
■お住まいの国・地域はどちらですか？

中国	34	17%
台湾	37	19%
フィリピン	33	17%
マレーシア	31	16%
韓国	29	15%
香港	15	8%
グアム	8	4%
シンガポール	4	2%
タイ	4	2%
CNMI	1	1%
マカオ	1	1%
その他(アメリカ)	1	1%
ブルネイ	0	0%
マーシャル諸島	0	0%
ミクロネシア	0	0%



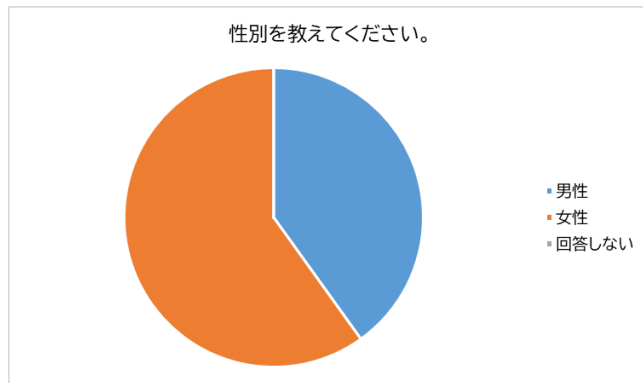
■年齢を教えてください。

10代	1	0%
20代	5	2%
30代	29	14%
40代	61	29%
50代	62	30%
60代	47	23%
70代以上	2	1%



■性別を教えてください。

男性	83	40%
女性	124	60%
回答しない	0	0%



道庁赤れんが庁舎 道産品ニーズ調査 開催概要

タイトル : 道産品ニーズ調査 in 北海道庁旧本庁舎 (赤れんが庁舎)

実施時間 : 2026年2月7日 (土) 10:00~16:00

実施場所 : 北海道庁旧本庁舎 (赤れんが庁舎) 2階 赤れんがホールA

来場者数 : 1日あたりの平均来館数 約2,300人 (うち3割外国人)



アクセス

〒060-0003
札幌市中央区北3条西6丁目1

- JR札幌駅西通り南口から徒歩約8分
- 地下鉄南北線・東豊線さっぽろ駅10番出口から徒歩約4分
- 地下鉄南北線・東西線・東豊線大通駅2番出口から徒歩約9分



道庁赤れんが庁舎 道産品ニーズ調査の様様

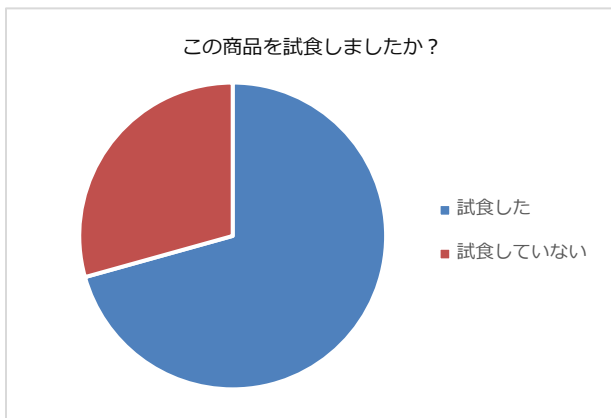


調査結果（アンケートの一部抜粋）

【食品会社】水産加工品

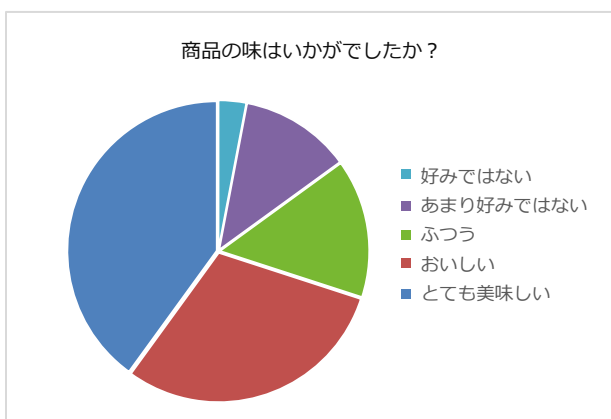
■この商品を試食しましたか？

試食した	94	71%
試食していない	39	29%



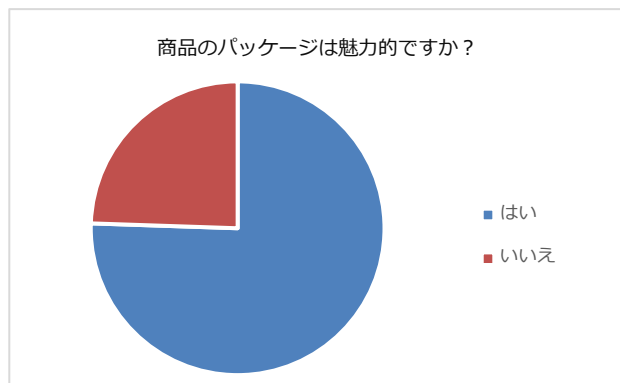
■商品の味はいかがでしたか？

好みではない	3	3%
あまり好みではない	11	12%
ふつう	14	15%
おいしい	28	30%
とても美味しい	38	40%



■商品のパッケージは魅力的ですか？

はい	71	75%
いいえ	23	25%

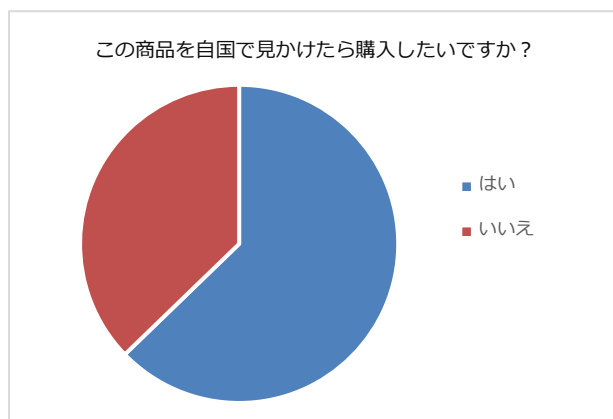


調査結果（アンケートの一部抜粋）

【食品会社】 水産加工品

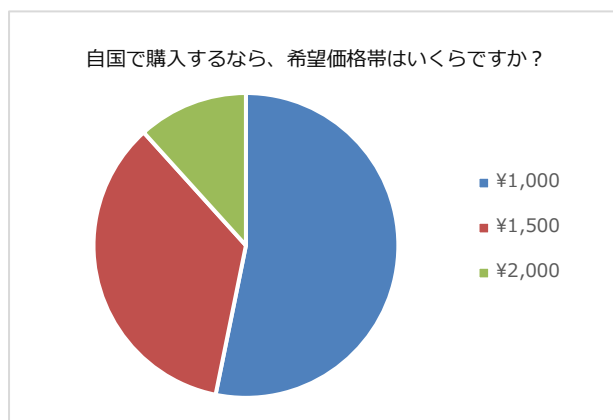
■この商品を自国で見かけたら購入したいですか？

はい	59	63%
いいえ	35	37%



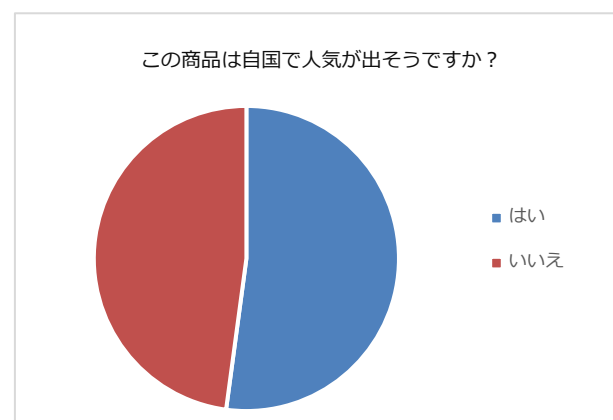
■自国で購入するなら、希望価格帯はいくらですか？

¥1,000	50	53%
¥1,500	33	35%
¥2,000	11	12%



■この商品は自国で人気が出そうですか？

はい	49	52%
いいえ	45	48%

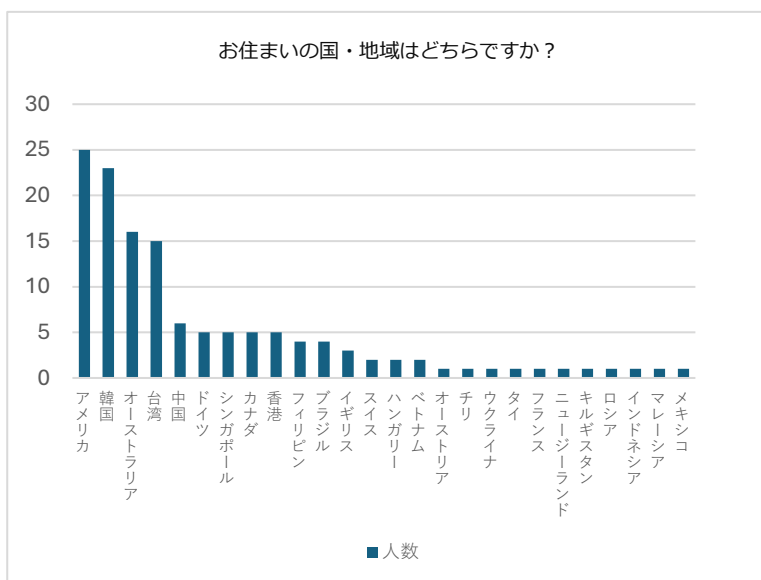


調査結果

▷回答数：133

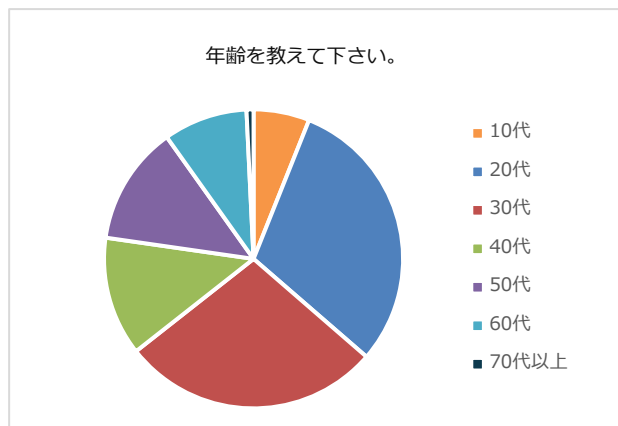
■お住まいの国・地域はどちらですか？

アメリカ	25	18.8%
韓国	23	17.3%
オーストラリア	16	12%
台湾	15	11.3%
中国	6	4.5%
ドイツ	5	3.8%
シンガポール	5	3.8%
カナダ	5	3.8%
香港	5	3.8%
フィリピン	4	3%
ブラジル	4	3%
イギリス	3	2.3%
スイス	2	1.5%
ハンガリー	2	1.5%
ベトナム	2	1.5%
オーストリア	1	0.8%
チリ	1	0.8%
ウクライナ	1	0.8%
タイ	1	0.8%
フランス	1	0.8%
ニュージーランド	1	0.8%
キルギスタン	1	0.8%
ロシア	1	0.8%
インドネシア	1	0.8%
マレーシア	1	0.8%
メキシコ	1	0.8%



■年齢を教えてください。

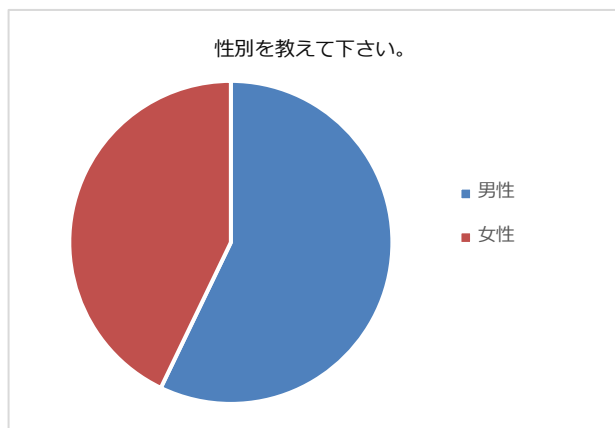
10代	8	6%
20代	40	30%
30代	38	28%
40代	17	13%
50代	17	13%
60代	12	9%
70代以上	1	1%



調査結果

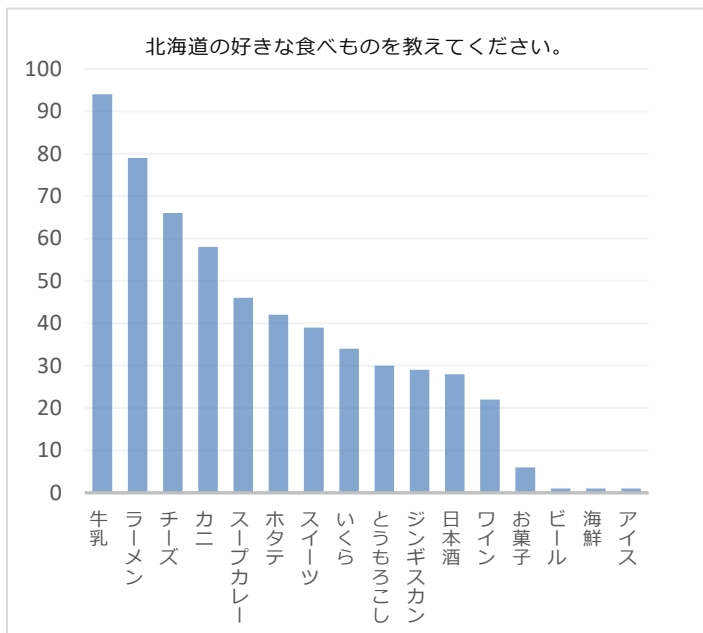
■性別を教えてください。

男性	76	57%
女性	57	43%



■北海道の好きな食べものを教えてください。(複数回答可)

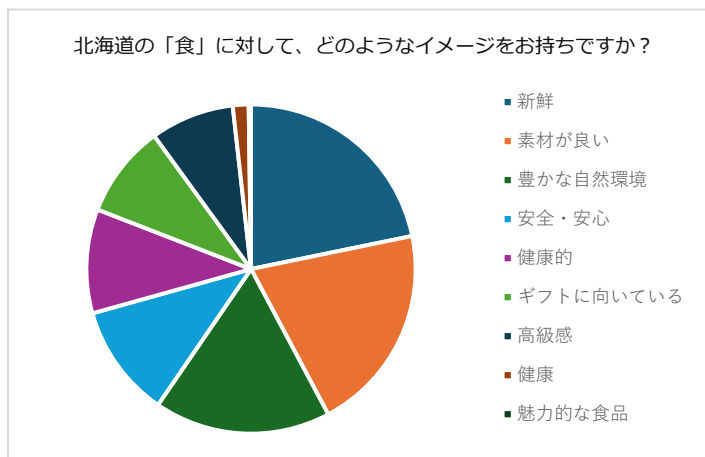
牛乳	94	16.3%
ラーメン	79	13.7%
チーズ	66	11.5%
カニ	58	10.1%
スープカレー	46	8%
ホタテ	42	7.3%
スイーツ	39	6.8%
いくら	34	5.9%
どうもろこし	30	5.2%
ジンギスカン	29	5%
日本酒	28	4.9%
ワイン	22	3.8%
お菓子	6	1%
ビール	1	0.2%
海鮮	1	0.2%
アイス	1	0.2%



調査結果

■北海道の「食」に対して、どのようなイメージをお持ちですか？（複数回答可）

新鮮	98	21.8%
素材が良い	92	20.4%
豊かな自然環境	78	17.3%
安全・安心	50	11.1%
健康的	46	10.2%
ギフトに向いている	41	9.1%
高級感	37	8.2%
健康	7	1.6%
魅力的な食品	1	0.2%

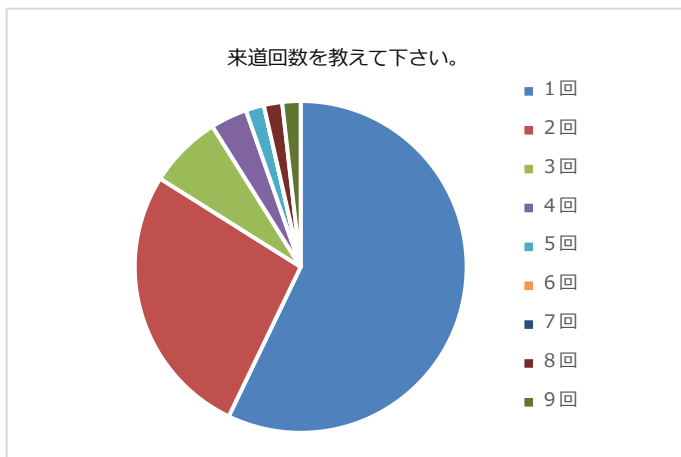


インタビュー結果

▷回答数：56

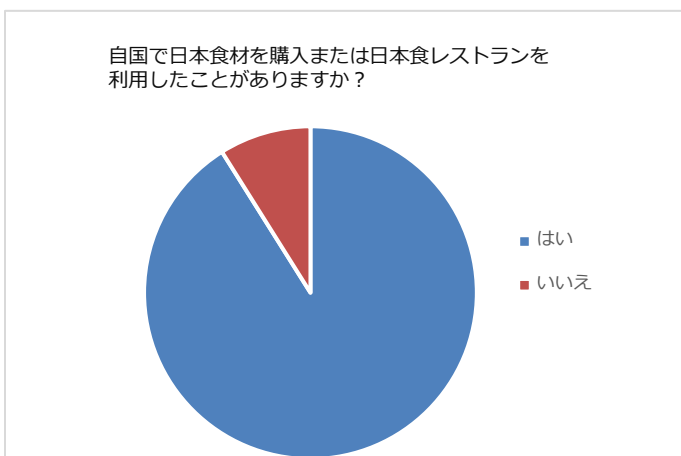
■来道回数を教えてください。

1回	32	57%
2回	15	26%
3回	4	7%
4回	2	4%
5回	1	2%
6回	0	0%
7回	0	0%
8回	1	2%
9回	1	2%



■自国で日本食材を購入または日本食レストランを利用したことがありますか？

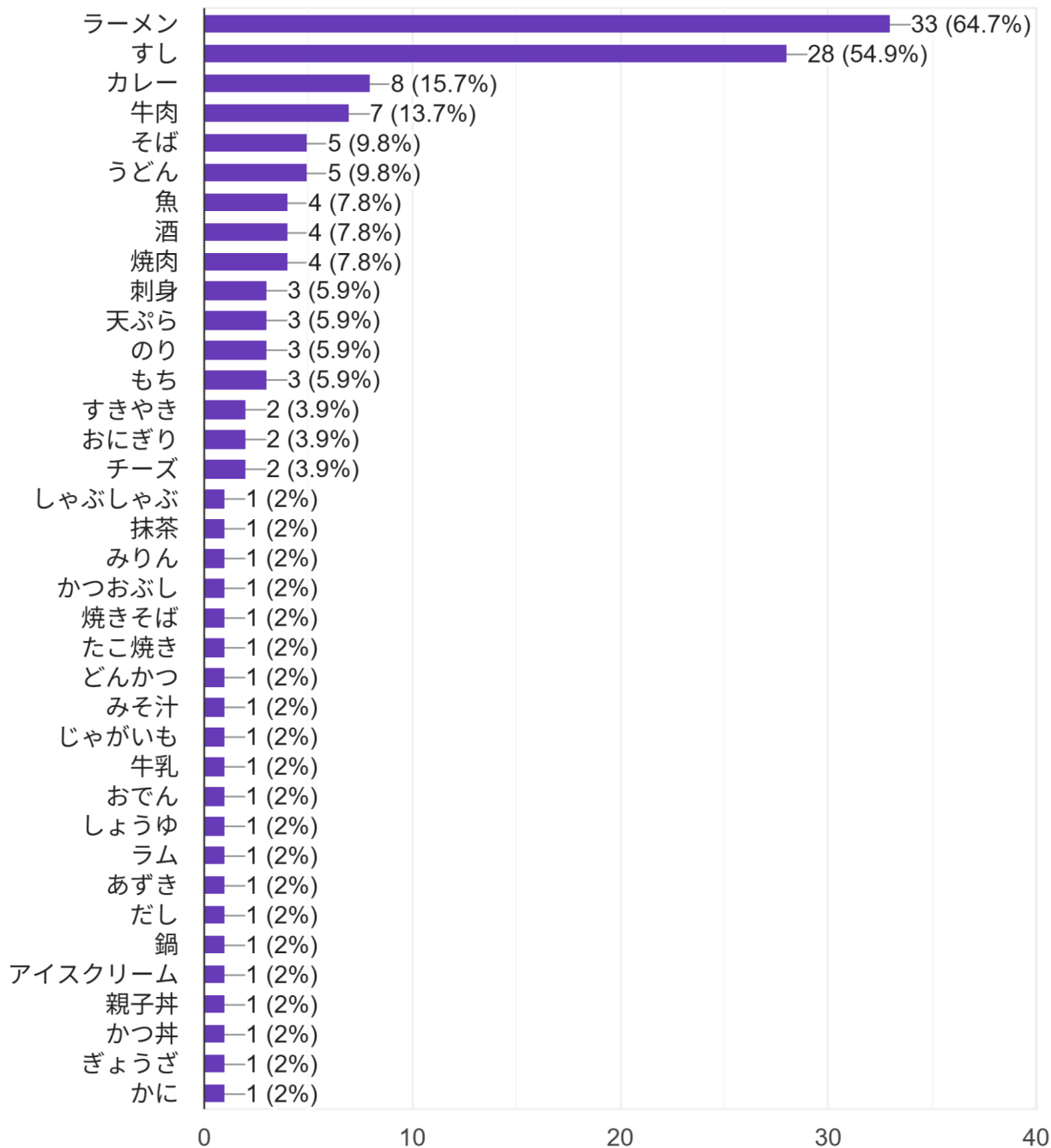
はい	51	91%
いいえ	5	9%



インタビュー結果

▷回答数：51

■どんな日本食材を購入またはレストランを利用したことがありますか？



調査のまとめ

本取組では、道産品の魅力を海外へ広く発信し、今後の輸出や商品改良に役立てることを目的に、外国人を対象とした道産品ニーズ調査を実施しました。セミナーや商談会に参加した事業者呼びかけ、様々な品目を出品していただき、実際に試食・試飲を通してご意見を伺う形式で行いました。調査は、時期や来場者層の異なる2つの会場で実施し、海外市場や訪日観光客など幅広い層からの反応を得ることが出来ました。

1つ目の会場は、2025年10月24日に大和ハウスプレミストドーム（札幌ドーム）で開催された国際会議「第62回オセアルフォーラム札幌（The 62nd OSEAL FORUM SAPPORO）」です。アジア諸国を中心に約1万人が来場し、この国際的な機会を活かして「GFP北海道」ブースを出展しました。道内4事業者が参加し、有機JASミニトマトや道産原料にこだわった加工食品など、特色ある商品を試食・試飲形式で紹介しました。終日多くの来場者が訪れ、ブースは活気に溢れました。

アンケートでは、味の評価や購入意向、希望価格、パッケージデザインなどを質問しました。その結果、「味が良い」「素材の良さが伝わる」「品質が高く安心できる」といった意見が多く寄せられました。一方で、「どこで購入できるか知りたい」「手軽に持ち帰れるサイズがあると良い」といった声もあり、今後の海外展開や商品開発の参考となる貴重なデータを得ることができました。参加事業者にとっても、海外消費者のリアルな声を聞く貴重な機会となり、道産品のブランド力を実感した調査となりました。

2つ目の会場は、2026年2月7日に実施した「北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）」です。リニューアルオープン後、多くの観光客で賑わう赤れんが庁舎のホールを会場に、訪日外国人観光客を中心としたアンケート調査を行いました。札幌近郊をはじめ旭川、釧路など、道内各地から計7社が出展し、ジェラートやワイン、加工食品などを試食サンプルとして提供しました。アンケートには、133人が回答し、「味」「香り」「食感」などの評価に加え、購入意欲や希望価格帯など具体的な意見を収集しました。アメリカ、韓国、オーストラリア、台湾などの回答者からは、「北海道の食は新鮮で自然の恵みを感じる」「品質が高く安心して食べられる」といった声が寄せられ、観光中の体験と購買を結びつける新たな可能性が示されました。

2つの会場を通じて、道産品が持つ「おいしさ」「安全・安心」「ものづくりへのこだわり」が、多くの国や地域で共感を得ていることが明らかになりました。また、国ごとの嗜好や価格感度の違いも浮き彫りとなり、今後は市場ごとの特色に合わせて味付けやパッケージ表現を工夫することの重要性も確認されました。今回の調査を通して得られたデータや声は、道産品のさらなる海外展開とブランド価値向上に向けて、北海道の“おいしさ”を世界へ届けるための新たな指針として活用されることが期待されます。

採録紙面

■2026年3月5日 北海道新聞全道版

広告



プロジェクトレポート

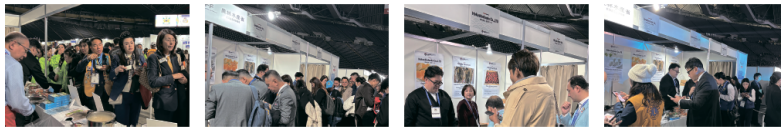
農林水産省北海道農政事務所による「GFP北海道」では、本年度、道産品の輸出拡大を目的として、2つのイベントを開催しました。
ひとつは、訪日外国人が多数参加した大規模フォーラムでのブース出展です。
もうひとつは札幌市内の人気観光施設内でのニーズ調査です。それぞれの様子をレポートします。

「The 62nd OSEAL FORUM SAPPORO」で道産品ニーズ調査を実施
～世界のライオンズクラブ会員に北海道の「おいしさ」を発信～

2025年10月24日(金)、大和ハウスプレミストドーム(札幌ドーム)で、ライオンズクラブによる国際会議「第62回オセアルフォーラム札幌(The 62nd OSEAL FORUM SAPPORO)」の開会式が開催されました。本フォーラムには、アジア各国を中心に約1万人が来場し、大きな盛り上がりを見せました。
農林水産省北海道農政事務所は、この国際的イベントの機会を活かし、海外への道産品プロモーションを目的とした「GFP北海道」ブースを出展しました。ブースでは、北海道の豊かな自然と確かな技術から生まれた農林水産物や加工食品の魅力を発信するとともに、海外市場における消費者ニーズを把握するための

アンケート調査を実施しました。
当日は、道内の4事業者が参加。有機JASミニトマトや道産原料にこだわった加工食品など、それぞれ自慢の商品を試食・試飲で紹介しました。北海道の味や品質を体感できるブースには、終日多くの来場者が訪れ、活気にあふれていました。
アンケート調査は、試食・試飲後に味の感想や購入意欲、希望する販売形態、パッケージデザインの印象などについてお聞きしました。
その結果、道産品の味や品質の高さ、自然を感じさせるパッケージデザインなどに対し、多くの海外来場者から高い評価が寄せられました。特に「素材の味が生きている」「品質が安心

できる」といった声が多く、北海道産品の信頼性とブランド力の高さが改めて実感されました。一方で、「どこで購入できるか知りたい」「お土産用の小容量パッケージがあると嬉しい」といった意見も寄せられ、今後の海外展開や商品開発に向けた貴重なヒントとなりました。
今回の調査は、参加事業者にとって海外市場のリアルな声を直接聞く貴重な機会となりました。多様な国や地域からの来場者に道産品の魅力を体験していただくことで、北海道の「おいしさ」がさらに世界へと広がるきっかけとなりました。



赤れんが庁舎でアンケート方式による道産品ニーズ調査を実施
～訪日外国人観光客に対し試食・試飲による詳細な調査を行う～

2026年2月7日(土)、「GFP北海道」による「道産品ニーズ調査 in 北海道庁旧本庁舎(赤れんが庁舎)」を実施しました。赤れんがホールAを貸し切り、庁舎を訪れた訪日外国人観光客を対象に、道内7社による食品などを提供し、アンケート調査を行いました。
2025年7月の大規模改修を経てリニューアルオープンした同庁舎には、連日国内外から多くの観光客が訪れています。今回の調査では、10月のオセアルフォーラムで実施したアンケート調査の質問に加え、北海道の食のメー

ジなど、「北海道」について特化した質問を個別でヒアリング調査しました。
出展事業者は、「当社商品の食感や味わいが、どの国の方に響くのか、その感触をつかみたい」と、札幌近郊をはじめ旭川、釧路など、道内各地から自慢のジェラート、ワイン、水産加工食品などを提供しました。
試食・試飲に参加した訪日外国人からは、「北海道の食品はどれもおいしい」「自国で購入したい」などの感想がありました。また、出展事業者からは「普段なかなか聞くことができない海

外の方の意見を直接伺うことができ、大変参考になった」との感想も寄せられました。
今回のニーズ調査には、アメリカ、韓国、オーストラリア、台湾を中心に、述べ133人が参加しました。集計した結果から、海外における日本食レストランの利用状況や、越境ECを利用した北海道産(日本)食品の購入状況を把握することができました。これらの情報は、出展企業による今後の商品改良や海外マーケティング戦略の検討に活用される予定です。



企画制作 / 北海道新聞社営業局



「GFP」とは、Global Farmers / Fishermen / Foresters / Food Manufacturers Projectの略称で、農林水産省が推進する日本の農林水産物・食品輸出プロジェクトのこと。輸出を意欲的に取り組もうとする生産者・事業者などのサポートと連携を図るコミュニティサイトとして、2018(平成30)年に立ち上げられ、登録者を対象に専門家による輸出診断、事業者同士のマッチングやセミナーなどの支援が行われています。「GFP北海道」は、北海道に密着した支援を行うため、全国初の地方版GFPとして、2022(令和4)年に発足し活動しています。

オセアルフォーラム
出展事業者(順不同)

株式会社北展フーズ
有限会社大塚ファーム
さっぽろワイン株式会社
株式会社五洋物産

赤れんが庁舎
出展事業者(順不同)

株式会社北展フーズ
TF食品株式会社
株式会社郊楽苑ホールディングス
さっぽろワイン株式会社
合同会社ひがし北海道フードサービス
株式会社フジワロコ大橋水産
株式会社五洋物産

業務内容 3

伴走支援のための体制の構築・稼働

伴走支援のための体制の構築・稼働

支援実施体制

GFP北海道の取組を通じて掘り起こした輸出事業者への支援を前提にGFP北海道事務局ならびに戦略拠点との連携を実施しました。
伴走支援のメニューは下記の通りです。

①輸出専門人材の手配・同行ならびに事後ヒアリングの実施

本事業において輸出商談やニーズ調査等に参加する事業者に対して、輸出専門人材によるサポート業務（海外規制対応、貿易実務、海外営業、マーケティング、認証取得に関する指導等）の手配・同行を行うこと。サポート業務実施後は、事後聞き取り調査（輸出専門人材の評価・ヒアリング）を実施し、整理分析すること。

②本省GFP事務局との連携

輸出専門人材の派遣に際し、必要に応じ、本省GFP事務局が作成する輸出専門人材リストを入手し、人材を派遣する上での連絡調整を行うこと。

③プロフェッショナル人材戦略拠点との連携

GFP登録事業者のうち、輸出人材に関する支援を希望する事業者に対して、輸出事業者等が求める輸出専門人材の把握を行い、雇用を想定する人材ニーズに関しては、北海道に設置されている内閣府事業プロフェッショナル人材戦略拠点に対して人材ニーズ情報を共有し、輸出事業者等と戦略拠点との人材マッチングを促進すること。

①A社

釧路で開催した「GFP北海道輸出セミナー&商談会」への参加をきっかけに、輸出支援に関する相談を受けたことから、北海道プロフェッショナル人材センターおよび北海道中小企業総合支援センター釧路支部の同席のもとでオンライン面談を実施しました。

その後、釧路支部の担当者が釧路市内でA社と面談し、事業内容や課題について改めてヒアリングを行いました。その結果、当面の優先課題は「国内での販路拡大」であることが確認され、今後は同センターおよび北海道よろず支援拠点が連携してフォローアップを進めていくこととなりました。また、同社は2月に実施された道産品ニーズ調査にも参加し、今後の海外展開に向けた基礎的な取組を着実に進めています。

②B社

札幌で開催した「GFP北海道輸出セミナー&商談会」をきっかけに、北海道プロフェッショナル人材センターとの面談を実施しました。

面談では、安定的な収益を確保するための流通ルートの構築、自社商品の試食を通じた販促の必要性、レストランなど飲食店への卸売ルートの安定的な確立といった課題について相談がありました。これらの課題に対応できる人材を本センターを通じて紹介してほしいとの要望があったことから、次のステップとして、申込シートに内容をまとめて同センターへ提出し、マッチングに向けて進めていくこととなりました。

③C社

釧路で開催した「GFP北海道セミナー」に参加いただいた企業から、輸出に関してさらに相談があり、ジェットロとの面談を実施しました。同社はシンガポールの「どさんこプラザ」で期間限定販売を行い、売れ行きは伸びなかったものの、モニター調査では一定の評価を得ました。その結果、国内販売に加えて、再び輸出展開も視野に入れて検討を進めています。パッケージデザインの評価は「普通」であり、今後の改善点としています。ジェットロからは、乳製品需要の可能性や販促提案の重要性、商社マッチングイベントへの参加などの提案があり、有意義な意見交換となりました。今後も引き続き、ジェットロによる伴走支援を行っていく予定です。

④D社

札幌で開催した「GFP北海道輸出セミナー&商談会」をきっかけに、北海道農政事務所と輸出促進に関するオンライン面談を実施しました。

約3年前にタイへの個別輸出や「どさんこプラザ」への出品経験はありましたが、継続的な輸出には至らなかったとのことでした。その背景を踏まえ、北海道農政事務所からは国・地域別の嗜好分析資料の説明があり、現地での販促活動や人材・資金の投入、レストラン向け展開、北海道食材とのペアリング提案の重要性について助言がありました。さらに、ジェトロの専門家支援制度の活用についても紹介されました。

D社は、2回のニーズ調査を通じて国別の嗜好や市場反応を把握し、今後の輸出検討における判断材料として活用していく方針です。

⑤E社

釧路で開催した「GFP北海道輸出セミナー&商談会」をきっかけに、北海道農政事務所と輸出促進に関するオンライン面談を実施しました。

同社はこれまで台湾やシンガポールへの輸出実績があったものの、取引先の経営状況などにより継続には至らなかったとのことでした。北海道農政事務所からは、輸出にあたっての留意点として、現地での試食やプロモーションの重要性、賞味期限の延長やラベル表記の工夫（「北海道」など日本語表記の活用）などが助言されました。また、ジェトロの支援制度の活用も紹介されました。今後は道新釧路支社からのバックアップも行う予定で、今回の面談は、今後の販路拡大に向けた具体的な方向性を確認する有意義な機会となりました。

■所感

本事業を通じて、改めて北海道の食産業が持つ潜在的な力と、海外市場に対する関心の高さを強く感じました。札幌・旭川・釧路の3会場で開催した「GFP北海道輸出セミナー&商談会」では、いずれの地域でも多様な業種の方々が積極的に参加され、道産品の魅力をいかに世界に発信していくかというテーマに真摯に向き合う姿が印象的でした。ジェットロによるセミナーでは、輸出に関する基礎知識から成功のポイントまで、実践的な内容が多く、参加者がメモを取りながら質問をする様子から、輸出に対する意欲や前向きなエネルギーが伝わってきました。

商談会では、海外および国内のバイヤーと道内事業者が直接対話することで、具体的な取引の可能性が生まれるとともに、互いの視点を知る貴重な学びの場にもなりました。産地視察ツアーでは、バイヤーが実際に生産現場を訪れ、素材や製造工程の丁寧さに感心される場面が多く見られ、「北海道ならではの品質」を改めて実感していただけたと思います。

さらに、道産品ニーズ調査を通じて、訪日外国人が感じる道産品の魅力を数値として把握できたことは、今後の輸出戦略立案において大変意義深い成果でした。味の評価に加え、パッケージや価格帯に対する率直な意見は、事業者にとって新たな気づきをもたらしました。また、専門人材による伴走支援を通じ、事業者一社一社が課題や目標を整理し、次のアクションへ踏み出すきっかけとなったことも、本事業の大きな成果であると感じています。

地域の特性を生かした多様な取り組みを通じて、北海道の「食」が世界へ広がる可能性を確かに感じる事ができました。多くの関係機関や参加者の連携、そして前向きな姿勢に支えられ、本事業が実りある成果を得られたことを実感しております。

■総括

本事業では、「グローバル産地生産流通基盤強化緊急対策事業（GFPコミュニティ構築支援加速化）」の趣旨に基づき、北海道における輸出促進体制の強化と、地域企業の海外展開を支援する取り組みを進めてきました。札幌・旭川・釧路の3地域で実施したセミナー、商談会、視察ツアーを軸に、行政機関・商工団体・支援機関・事業者が一体となって、海外市場への挑戦を具体的な形で後押しすることができました。

セミナーでは、輸出のノウハウやリスク管理、ASEANの市場動向などの実務的な内容に触れ、事業者による輸出への理解を深めることができました。商談会では、これまで海外取引の経験が少なかった事業者も積極的に参加し、商品を直接紹介することで新たな販路開拓の機会が生まれました。参加者アンケートからも、「具体的なアドバイスが得られた」「自社の強みを見直すきっかけになった」といった声が多く寄せられ、現場に根差した支援の有効性が確認されました。

また、ニーズ調査では、海外消費者の嗜好や購買意欲を数値化し、商品の改良やブランド戦略を検討するための基礎データを収集しました。道産品の「おいしさ」「安心・安全」「自然の恵み」といった価値が国境を越えて評価される一方で、価格設定や持ち帰りやすさなど改善の余地も明らかになり、今後の戦略検討に向けた有益な材料となりました。さらに、伴走支援体制の構築により、輸出初心者を含む事業者への継続的な支援が可能になりました。専門家や関係機関が連携しながら課題解決を図ることで、単発的なイベントにとどまらず、地域産業全体としての輸出力強化に向けた仕組みづくりが進展した点は大きな成果です。

本事業を通じ、北海道の豊かな食資源と、現場で挑戦する生産者・事業者の熱意が結びつき、「次のステージ」へ進むための基盤を築くことができました。今後は、本事業で得られた成果と課題を踏まえ、持続的な輸出促進と地域経済の発展に向けて、関係機関との連携を継続していくことが重要と考えております。